（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児デイサービス　プエオキッズ　／　重症児者デイサービス　プエオウイング			
○保護者評価実施期間	令和　７年　１２月　１日	～	令和　８年　１月　３１日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○従業者評価実施期間	令和　７年　１２月　１日	～	令和　８年　１月　３１日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	28	（回答者数）	22
○事業者向け自己評価表作成日	令和　８年　３月　16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○重症心身障害児(利用児）の身体状況や発達段階を丁寧に捉えながら、安全で安心できる環境の中で支援を行っている。子ども一人ひとりの状態に合わせた支援を他職種のチームで共有しながら取り組んでいる点が強みとなっている。	○日々の記録を通して重症心身障害児(利用児）の身体状況や変化を共有し、姿勢保持や活動内容について職員間で確認しながら支援を行っている。	○今後も職員研修や事業所内での振り返りを継続し、重症心身障害児(利用児）支援に関する専門性の向上を図っていく。
2	○保護者や家族との情報共有を大切にし、家庭での様子や身体状況の変化を踏まえた支援を行っている。安心して利用できる関係づくりができている点が強みとなっている。	○送迎時のやり取りや連絡帳等を通して日々の様子を丁寧に伝えるとともに、家庭での様子についても共有してもらいながら支援内容に反映している。	○今後も保護者との対話を大切にしながら、家庭や関係機関との連携を深め、安心して利用できる支援体制づくりを継続していく。
3	○事業所での活動や行事の様子について、写真や記録を整理しながらSNSやWebページ等で発信し、事業所の取り組みを分かりやすく伝えている。	○日々の活動の様子や行事の取り組みを整理し、保護者や地域の方にも事業所の活動が伝わるよう継続的な情報発信を行っている。	○今後も情報発信を継続し、事業所の活動や重症心身障害児支援について地域の理解促進につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○重症心身障害児(利用児）の身体状況や活動内容によって必要なスペースが変化するため、活動環境やスペース確保については引き続き工夫が必要と考えられる。	○姿勢保持具やマット活動などを行う際には一定のスペースが必要となるため、活動内容によっては室内配置の調整が必要となる。	○備品整理や収納方法の工夫などを行い、活動内容に応じて柔軟にスペースを確保できる環境整備を進めていく。
2	○地域における重症心身障害児（利用児）の支援資源が限られているため、関係機関との連携や情報共有のさらなる充実が必要と考えている。	○地域の支援機関や医療機関、関係事業所との情報交換の機会が限られていることが一つの要因と考えられる。	○関係機関との情報交換や研修機会への参加などを通して連携体制を強化し、地域の支援ネットワークの充実につなげていく。
3	○重症心身障害児(利用児)支援では専門性の高い知識や技術が求められるため、職員の支援力向上を継続的に図っていく必要がある。	○重症心身障害児(利用児）支援の身体状況や医療的ケアの内容は多様であり、個々のケースに応じた知識や技術の習得が求められるため。	○外部研修への参加や事業所内での学びの共有を通して、職員全体の支援力向上に取り組んでいく。